

火の国阿蘇の 恵みのブランド

中学生のときは大工になりたかった。工業高校では 本工デザインを学んだ。そして社会人として トーデザインの制作会社に勤務し、新車のデザインと格闘する。 カーデザインの制作会社に勤務し、新車のデザインと格闘する。 アバラバラなようですけど、つまりモノづくりが好きな女なのです」 控え目に、すまなそうにそう言う佐藤智香さんだが、じつは熱い心が 燃えている。生まれも育ちも阿蘇だ。二〇一四年に帰ってきた。 でれに頼まれたわけじゃなく、私が戻らないとこの家はなくなってしまう」 と、そんな思いに駆られてだった。花形職業をあっさり捨て、畑に入った。 農業をずっとやってきた祖母に教わり、やがて漬物に心を奪われる。 自然にしか作れない味、人工ではできない味の魅力は汲めども尽きない。 自然にしか作れない味、人工ではできない味の魅力は汲めども尽きない。 自然にしか作れない味、人工ではできない味の魅力は汲めども尽きない。 自然にしか作れない味、人工ではできない味の魅力は汲めども尽きない。 たとえば高菜なら、朝から夕方までかけて収穫し、すぐに漬ける。 たとえば高菜なら、朝から夕方までかけて収穫し、すぐに漬ける。 たとえば高菜なら、朝から夕方までかけて収穫し、すぐに漬ける。

漬物工房 まんまミーアー 佐藤智香

そんな光景にすこし似ている。

人と自然が共作する阿蘇。あるがまま、という貴さ。